

千年の森便り No.149

2015.12.10

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

12月6日(日) 晴

参加会員は赤松、伊藤、岩崎(寿)、鶴沢、及川、苅米、久我夫妻、坂本、根本、成沢、福島、真鍋、村野、山口の15名、ちば里山カレッジのインターンシップ参加者5名を迎え、ニホンジカ生息状況調査、樹木の成長量調査、物置の屋根ふき、インターンシップの森案内など行いました。森は紅葉が見ごろを迎えて輝き、ガマズミ・シロダモ・アオキ・ヤブムラサキ・ゴンズイなどの実が美しく色づいていました。(真鍋)



里山カレッジインターン5名を迎え



豊英島は秋色にそまり



森は色づいていました

〇ニホンジカ生息状況調査

2015年度3回目のニホンジカ生息状況調査を行いました。調査時間は10:05~10:30で、いつものように島内を7コースに分かれて踏査し、シカ(目撃、声、足音)とその痕跡(フン、足跡)を探索しました。前回に続き、今回もシカの目撃はありませんでしたが、比較的新しいフンや足跡が確認されたことから、シカにより島が利用されていることは確かなようです。(福島)



調査前のミーティング

〇巨木林成長調査

巨木林エリアの植生保護柵内に設置した試験区において樹木の成長調査を行いました。測定本数は約70本、インターンシップで参加された皆さんに測定を手伝っていただきました。結果はとりまとめ中ですが、これまでどおり胸高直径が大きい個体で成長量が大きく、胸高直径が小さい個体はほとんど成長していませんでした。

また、胸高直径が小さい個体でも、モミや常緑広葉樹は落葉広葉樹に比べて成長量が多い傾向がありそうです。(福島)



胸高直径計測はインターン実習で

〇里山カレッジインターンシップ

里山カレッジから5名の方が、インターンシップで豊英島に再訪されました。前回カレッジ本番の際は雨模様でしたが、今回は好天に恵まれ、つり橋からの紅葉に歓声が上がりました。

まず朝一番でシカ調査に全員参加してもらいましたが残念ながらシカには遭遇できませんでした。その後、成長量調査(4名)と竹作業(1名)に分かれて体験してもらいました。年に一度、胸高直径を測る成長量調査では、データの積み重ねがさまざまな議論の土台になることを実感してもらえたのではないかと思います。

午後からは、禁断の岬やホテイ岬にも足を延ばして島内を一周しました。岩崎会員のミニ講座などもあり、和気あいあいとした時間を過ごしました。

インターンシップの皆さん遠路お疲れ様でした。また別の季節に豊英島を訪ねてください。(伊藤)

里山カレッジ インターンシップにて

吊り橋を渡りながら これは厄落としかな？なんて感がありました。きらめく水面、柔い岩肌を彩る紅葉と深緑のコントラストが、急ぐ足を止めさせさらに呼吸も整えてくれました。これもセラピー効果なののでしょうか？ 渡橋は入島の儀式のようにも・・・豊英島とその生命たちよ、そして千年の森をつくる会の皆様、おじゃまいたします。

ニホンシカの生息状況調査 (区画法、定点観測) 7班に分かれ、皆で一斉に踏査、視覚、聴覚、嗅覚での探り方を学びました。個体を目撃する事はできませんでしたが、林床や木々に残るサインや灌木植生の状態、鳴き声や足音、そして獣臭などから推察できる生息状況のつかみ方が理解できました。

物置屋根材づくり(竹割など)のこぎりやなたを使い、切り出し、割、節抜き等、屋根に使われる目的の材料作りを行いました。役割を分担し流れ作業、声を掛け合い、そんなリズムに同調！やはり里山活動の推進にはチームワークと汗が重要だと感じました。島のマダケ林とホテイチク林もご案内いただき、水辺のホテイ岬は幻想的でした。

島のガイド(島の地形と植生分布の説明)

森づくりの皆さんによる案内は、数百年万年前の地殻変動による房総丘陵の地質地層の成立ちや気象変動による植生の変化、猿人からヒト、人類との共生時代、そして現代の貴重な森林里山と動植物、菌類に至るまで、壮大なスケールでした。すでに地球環境はヒトにゆだねられている。なんて思考を巡らせるような・・・豊英島って豊かな英知が集う場ですね。その生命たちと皆様のパワーを感じました。また訪れる機会に恵まれそうな気がしています。

会の発足からこれまで、ご活躍の皆さまに感謝するとともに今後のご発展を祈念いたします。



森の階層構造について説明



禁断の岬は健脚コース



禁断の岬急斜面で



ホテイ岬先端で

豊英島の活動に参加して

関東一遅いという紅葉の盛りの中、豊英島で色鮮やかな光景を楽しみながら、ボランティアに参加させていただきました。

当日の活動で一番興味があったのはシカの調査です。海外では動植物の調査をボランティアが行っているのはよくあることですが、日本で、しかも君津でこのような調査に参加できるとは、思ってもおりませんでした。残念ながらシカの姿を見ることはできませんでしたが、シカのフンを数か所で発見しました。シカが近くに生息していることを感じ、とてもわくわくしました。

ぜひまたこの森を訪れたいと思っています。近い将来に引っ越しの予定があるので、それが落ち着いたら会に入会することも考えています。

市原市 手戸博信



吊橋は入島の儀式



ホテイ岬からの眺め



マップ見ながら植生分布説明

千葉市 近藤陽子

○野鳥記録

オシドリ8 カワウ8 オオバン3 クサシギ1 ミサゴ1 トビ1+声 コゲラ声 ハシボソガラス声
ハシブトガラス声 ヤマガラ声 シジュウカラ声 ヒヨドリ3+声 エナガ声 メジロ3+声 以上 14 種

オシドリの群れが紅葉をバックに飛んでいました。♀1に対し♂7と雌雄のバランスが極端でしたが、よくあることです。来春の繁殖相手の♀を沢山の♂が追い回す婚活中の一場面で、オシドリに限らず鴨の仲間に共通の習性です。

また皆さんが吊り橋の入口付近に集まっていた時、最後尾を歩いていた私の前をシギが1羽鳴きながら飛んで行きました。生息範囲の広いイソシギかと思いましたが、図鑑を見比べた結果、翼の裏表とも黒かったので、クサシギに変更して記録します。ミサゴは福島さんが見ました。（坂本）

○センサーカメラから

シカ5回、アライグマ2回、ネコ1回の画像がありました。尚、同じ日に同じ動物が何カット写っていても1回とカウントしています。ネコがここまで何しに来たのかと思いますが、野生化した野猫は要注意動物です。

沖縄では天然記念物の飛べない鳥ヤンバルクイナを捕食し、御蔵島では地中の穴に営巣するオオミズナギドリの集団繁殖地が壊滅の危機だそうです。（坂本）



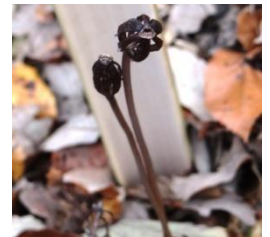
ニホンジカ 11/25 a.m.7:14



ネコ 11/23 a.m.11:12

○植物調査 クロヤツシロラン株探し

クロヤツシロランの株を探し、株に竹串でマーキングしました。10月～11月には相当数の株を見ましたが、この日株は減少し僅か17株しか確認できていません。6年前の第一発見地のホテイ岬も探しましたが見当たりません。株発見から7年目の来年こそ花を是非とも見たいものです。（真鍋）



クロヤツシロラン蒴果



イロハモミジ 12/6



オオモミジ 12/6



エンコウカエデ 12/6



ヤマボウシ 12/6



カマツカ 12/6



ウリカエデ 12/6

○物置の屋根葺き

豊英島内の真竹を間伐、二つ割りにして節を抜き竹葺き屋根の追加工事を行いました。およそ9割程葺き屋根を仮止めした。次回は不足分を継ぎ足し竹葺き屋根を完成させたい。（根本）



割竹を組み合わせて屋根ふき

お知らせ

○豊英島のツチアケビ

豊英島に自生しているツチアケビは、年によって盛衰を繰り返し、今年は地上部が全滅しました。その実態を把握する一助として、今まで9年間の豊英島での記録を整理し、「豊英島のツチアケビ」にまとめ、会のホームページ↓にアップしました。年々更新しますのでご覧下さい。

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

ホームページを見ることが出来ない方で、この資料に関心ある方にはプリントして郵送しますので、電話下さい。
電話：090-3809-7907（真鍋）

○1～3月の定例活動日

1月17日（日）ホダ場保護柵、植生保護柵管理 野鳥調査など

2月13日（土）光環境調査（冬）、植物調査、野鳥調査など

3月13日（日）シカ個体数調査4、ヒメコマツ樹高・径計測 植物調査、野鳥調査など

いずれも、9時30分、清和県民の森駐車場集合

年の終わりに

代表 久我哲也

今年は会員の外、多くの一般の方々が豊英島を訪問されました。5月には、自然観察会があり、一般参加者4名、7月にはキノコの観察会に29名、10月にはキノコ観察会に23名、11月には「ちば里山カレッジ」の受講生の皆さんが約50名、また、7月のキノコの観察会では、京葉銀行の広報誌「きずな」に参加者全員の笑顔の写真が大きく掲載されました。9月には、坂本さんが「ちば里山カレッジ」で、「ちば千年の森をつくる会」を紹介されました。

この他にも多くの方々に、ちば千年の森をつくる会の情報が発信されました。これも会員の皆さんの日頃の地道な活動の積み重ねの成果です。来年もご協力よろしくお願いします。